

## Africa's Economic Partnership with China: An Holistic Analysis

Mussie Deleegn Arega

Abingdon and New York: Routledge 2023 xvi+304 p.

近年、アフリカと中国の経済関係が急速に深化している。伝統的なパートナーである欧米諸国だけではなく、中国との間でも貿易、直接投資、開発援助など、さまざまなチャネルを通じて経済活動が活発化している。しかしアフリカとりわけサブサハラアフリカの多くの国は、中国との経済関係が深化しているにもかかわらず依然貧困を抱えており、経済発展していない。本書は、アフリカ各国が中国という新しいパートナーをどのように活用して今後の経済政策・開発政策を立てていけばよいのかを考察している研究書である。

著者はアフリカの包括的な経済成長を生み出し開発を加速するためのキーワードとして、生産能力強化と構造改革をあげている。生産能力に関しては、自然資本、人的資本、交通インフラ、エネルギー、情報通信技術、民間部門など8つの要素にわけて検討し、アフリカの生産能力はこの20年間、ほとんど、あるいはまったく改善していないと指摘している。とりわけ交通インフラ、エネルギー、情報通信技術において、アフリカは他の発展途上国と比べて大きく遅れをとっているとする。

さらに筆者は、アフリカの新しい開発パラダイムを構築するためにベトナムの経験から学ぶことが重要であるとし、ベトナムの経済政策を詳細に検討している。そして鉱物資源の有用性を認めつつ、それだけに依存するのではなく人的資本（豊富な労働力）を活用する経済へと変革を進めることや、農業改革の重要性、中央集権的でありながら官民対話を重視する柔軟な組織運営といった要素を取り出し、アフリカ諸国の政策立案者に対して提言を行っている。

筆者は、アフリカ―中国関係をめぐる議論において、アフリカへの投融資が欧米諸国から中国へと量的に移行することに過度の焦点が当てられていることを憂慮し、質的变化を検討することも重要であると主張する。欧米諸国が開発援助や技術支援などを行う際、民主主義、法の支配、人権、環境保護などの条件を課すのとは対照的に、中国はアフリカ諸国の国内政治や国内体制に関しては不干渉という姿勢をとっている。こうした中国のアフリカへの条件なしの関与に対して「アフリカ大陸の政治的、経済的、環境的搾取の一形態」とする批判も多いが、アフリカ諸国にとって、インフラ整備のための資金援助やビジネスとりわけ中小企業に対する投融資という形で、アフリカが切望する流動性の供給源となっている面も否定できないとする。

アフリカの経済データに関しては欠如や信憑性などの課題があるなかで、本書は可能な限りデータに基づき、さまざまな指標を使って客観的な分析を試みている。言説にとらわれず、アフリカ―中国の経済関係の新たな側面を知ることができる一冊である。

箭内 彰子（やない・あきこ／アジア経済研究所）

